

鋼床版に改質グーアス舗装

大林道路 九島大橋に採用

大林道路は鋼床版の舗装に従来のグーアス舗装に代えて改質グーアス舗装に採用することを推進、提案している。改質グーアス舗装の基本性状、試験結果、施工事例をまとめて報告。3日に開通した愛媛県宇和島市の九島大橋には約3,380平方メートルが使用され、施工実績は約1万8

千平方メートルとなった。グーアス舗装はストリートアスファルト20、40にトリニタッドレイクアスファルト（TLA）を混合して作られ、流し込み工法が可能で流動性をクツカの中で攪拌、混合したもの。ストラス20とTLAは比較的に手困難な材料で、専用ケトルやTLAの小割が



九島大橋（宇和島市）で活用

必要となり、プラントの作業効率がよくない。2005年頃から耐久性と作業効率向上のため、入手の容易なポリマー改質アスファルトに特殊添加剤を加えた改質グーアスを研究、開発してきた。改質グーアスは従来のグーアス舗装と比べ、材料コストは割高になるが製造・施工コストはほぼ同等。NEXCO仕様の高機能舗装Ⅱ型との2層構造体ホイールトラックング試験では、グーアスコ

ンには基層部も流動しているが、改質グーアスコンはほとんど変形していなかった。ひび割れ具合を検討した、曲げ疲労抵抗試験では各設定ひずみで改質グーアスコンが従来のグーアスコンよりも1オーダー高い破壊回数を示し、高い曲げ疲労抵抗性を示した。臭気測定では施工時に従来のグーアスコンではTLAという天然アスファルト特有の臭気があるが、改質グーアスコンは温度が240度になっても臭気度合いが変化しなかった。同社は、耐久性を向上させ、周辺環境にも配慮した改質グーアス舗装を今後の橋梁新設工事、大規模修繕、大規模更新に向けて積極的な営業展開を開始していると